

山都町立矢部小学校 学校だより



矢部小HP

令和7年1月1日(水)

第36号 (兼年賀状)

2次元コード”

カラー閲覧できます

校長 池部 聖吾智 (みわとも)

☆☆

私事で恐縮ですが、三月で還暦を迎えます。このことは私の祖母と義父の年齢に並ぶことを意味します。ここ数ヶ月に私の周りでいろんなことが起き、考えることも多くなりました。私も「そんな歳」になったのです。今年は、私自身も巳年の特徴と言われる「粘り強さ」を活かしながら、矢部小と同様に「進化」する年にしたいと思います！

昨年四月、矢部小は潤徳小と統合して「新生・矢部小」として新たにスタートしました。令和七年は「矢部小がさらに脱皮を繰り返し、成長していく」年だと解釈し、今年「のキーワードを「進化する矢部小」とします。今年もどうぞよろしくお願いします。

令和七年は六十千支で「乙巳（きのとみ）」。

一説では「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いを持つ年だといわれています。

「巳」は脱皮して成長する蛇をさし「再生と変化」を意味します。

2024流行語大賞「名言が残せなかった」エピソードで思い出したこと

夏のパリ五輪陸上女子やり投げで、金メダルを獲得した北口榛花さんのインタビューで発した言葉が今年の流行語大賞に選ばれました。彼女は小さい頃から、スポーツ観戦が大好きだったそうです。特に五輪（競泳）は、テレビにかじりつくように見えて、インタビューで飛び出すメダリストの言葉に感銘を受け、「いつか自分も」と憧れ続け、今回実現させたのです。

これまでも多くのアスリートが、「思い続けたこと」を実現してきました。大リーグの大谷翔平さん、本校の大先輩・柔道の山下泰裕さんは、その代表例です。内容は少々異なるかもしれませんが、私が中1のときに新聞の付録についてきた「熊本県公立高校入試問題」を手にして、「2年後にはこの問題が解けるようにならないといけないんだ」と、何回も問題を見返しながら本番の入試に臨んだことを思い出しました。「引き寄せの法則」という言葉があります。不思議なもので私自身、この歳になって「信念の力」を感じることが多くなりました。

矢部抄

秋に受診した人間ドックの結果を受け、年末に保健指導を受けた。今回は専用サイトに毎日記録しながら振り返るプログラムを実行することになった▼ハッキリ言ってこれまでの中で最も厳しいプログラムだ。毎日記録せざるを得ない環境におかれ、3ヶ月後に目標達成（体重・腹囲ともにマイナス2）できないとプログラム期間が延長されるのだ。呑み食いが多くなる年末年始にこのプログラムはキツイ（ー；）▼ここ数ヶ月、町図書館に行っていない。年末も借りに行くのを忘れた。そこで、年末年始は蔵書を読んだりジックリ読み、本を減らしていくことにした▼その背景には、自身の書齋が大変なことになっていたことがある。片付けが苦手な床に本や書類が積もった状態になっていた。そこで年末には書齋を大掃除した▼残り3ヶ月は次年度に引き継ぐ大切な期間となる。ラストスパートだ！